

競技注意事項

1、規則

- ① 競技は2021年(公財)日本陸上競技連盟競技規則、及び本競技会要項、申し合わせ事項によって行う。
- ② トラック種目については、すべて決勝タイムレース形式により順位を決める。
同成績の場合、写真判定計時は1000分の1秒での記録判定を行う。
- ③ 走り高跳を除くフィールド競技種目は、試技三回の記録でトップ8を決定し、残り3回の試技により順位を決定する。
- ④ WA 競技規則 TR 16 により、不正 スタートをした 競技者は 1 回 で失格とする。
スタート時の不適切行為については、WA 競技規則 TR16 を適用する。
- ⑤ シューズ(スパイク、ランニングシューズ含む)の厚さは、日本陸上競技連盟規則 TR5. 2～TR5. 6により、
800m 未満の種目は 20mm 以内、800m 以上の種目は 25mm 以内とする。規定外のシューズ使用は失格とする。
ただし、中学・高校生競技者について、【フィールド競技用シューズ適用除外措置(2021/4/5)】より適応を除外する。

2、練習

- ① 競技場内での練習は、競技に支障がないと判断した場合のみ招集完了をすませた選手のみが行えるものとする。
- ② トラック競技の練習について、直走路スタート及びレーンの指示を放送により行い、競技役員が指示する。
- ③ フィールド競技の練習は、競技開始前も全て競技役員の指示により、競技場内において行う。
特に投擲競技についてはこの指示を厳守し、周囲の安全確認を最優先すること。
また、競技場外での投てき種目の練習(含メディシンボール類等)は一切禁止する。
- ④ ホームストレート競技(100m、ハードル)の練習は、バックスタンド練習走路とする。
- ⑤ 特に公園内駐車場でのアップは、禁止とする(陸上競技場外周路や公園内の園路でのアップは可能)。

3、競技場・シューズ・スパイクピン等について

- ① 本競技場は、全天候型の競技場です。
- ② 競技用靴のスパイクピンは、9mm以下、11本以内を使用すること。(その他規則TR5.2～5.6の適用)
また、先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するものであること。
- ③ **A:シューズに関する確認**

全ての競技者は下記競技種目別の使用シューズに関する確認を受けること。

* 100m、200m、100mH、110mH種目の競技者

第1次招集を受けるときに、使用するシューズを持参し、係から確認を受ける。

* 1500m、3000m、5000m競技の競技者

第2次招集を受けるときに、使用するシューズは、WAの承認リストシューズであることを係から確認を受ける。

使用するシューズが、WAの承認リストにない場合、シューズ靴底の厚さを確認する。

この時、規定値を超えるシューズの場合、使用を認めないので、規定値外の可能性がある場合、代替のシューズを準備しておくこと。

規定値外のシューズを着用し、走った場合は失格扱いとする。

なお、審判長は必要に応じ、フィニッシュ後競技者レース使用シューズ靴底の厚さを再確認する場合がある。

B:WAの承認リストシューズのカスタマイズについて

原則承認リストのシューズであっても、カスタマイズされ(購入時のインソール(中敷き)を変更等)ている場合は、

承認シューズ規定値の許容(シューズサイズによる厚さの増加)は認められず、25mm以下を適用します。

競技注意事項

4、招集・入退場

競技場(スタンド含む)への入場は、体調チェックシート提出者に配布したリストバンド装着者のみ許可する。

- ① 招集は2回で、第1次招集はスタートリストに「○」をつけ、第2次招集は競技者本人(代理人は認めない)がスタート付近で行う。
- ② 1次招集開始時刻及び招集完了時刻(移動開始時刻)は、プログラム記載競技開始時刻を基準とし、下記の通りとする。

種目	招集開始	招集完了
トラック競技	競技開始2時間前開始	競技開始60分前完了
フィールド競技	競技開始2時間前開始	競技開始60分前完了

- ③ 2次招集は、競技開始時刻までに競技者本人がスタート地点(フィールド競技場所)に集合し、競技者係から点呼を受ける。
点呼を受けた競技者は競技者係の誘導・指示により、スタート位置又は試技を行う場所に移動する。
トラック種目の競技者は、1次招集で配布した腰ナンバーカードを、右腰後部に装着すること。

種目	招集開始	招集完了
トラック競技	競技開始20分前開始	競技開始10分前完了
フィールド競技	競技開始45分前開始	競技開始30分前完了

- ④ 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権をするものとし処理する。
(スタート地点・競技場所に一次招集所の確認がなく集合した場合、出場を認められない。)
- ⑤ 競技場への入場については競技者係の指示に従う。
退場について、トラック競技はフィニッシュ後、スタート付近の荷物を回収し所定の階段から退場し、各自チームの待機場所に戻る。
また、フィールド競技は試技終了後、競技役員の指示で競技場から退場する。競技終了後は速やかに帰宅する。
なお退場の際は、手洗い等感染防止の手順を踏むこと。

5、ナンバーカードおよび腰ナンバーカード

- ① ナンバーカードは、胸(腹ではない)と背に、しわにならないように伸ばして、四隅をしっかり装着する。
ただし、跳躍競技は胸または背だけの一枚でもよい。
- ② トラック種目競技者は、一次招集所(受付)で配布された腰ナンバーカードを右腰後部に装着する。
(ただし、リレーは第4走者のみとする。)
- ③ 上記腰ナンバーカードは、競技終了後に自宅へ持ち帰ること。

6、3000m・5000m競技のスタート方法及びオープンレーンについて

高校男子5000m・高校女子3000m・中学男子3000m競技は、グループスタートを採用する。

その場合のスタート方法は、各組のレーン番号のおよそ2/3までが内側スタートグループ、残りが外側スタートとなる。

なお、スタート10m以内には内側・外側を分離する縁石は設置しない。

7、走高跳のバーの上げ方

- ① 走高跳におけるバーの上げ方は次の通りとする。(天候、その他諸事情・条件によって変更する場合もある)

競技種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	備考
中学男子走高跳	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70		以降順位確定後は
中学女子走高跳	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45				審判長の指示による。

- ② 第一位に関わる競技者が同成績の場合について。第一位決定のためのバーの上げ下げは2cmとする。(TR26.9)

競 技 注 意 事 項

8、表 彰、記録証

- ① 各種目8位まで入賞した競技者は、記録結果放送を行う。後日決勝一覧表をホームページに掲載する。
- ② 全競技種目3位まで賞状・メダルを授与する。但し表彰式は実施しない。
全種目入賞4位～8位は、記録証を授与します。
- ③ 入賞者は、顧問・指導者の先生方にお渡ししますので、本部に賞状・メダル・記録賞を受取りにお出で下さい。

9、記 録

- ① この競技会の記録については、(公財)日本陸上競技連盟への公認申請を行います。
- ② トラック種目の競走競技はすべてのレースにおいて、写真判定(電気計時)を採用する。
- ③ 記録の発表は放送によるものとし、掲示発表はしない。後日ホームページにリザルトを発表する。

10、競技からの除外

- ① 審判長は、競技運営上必要と認めた場合、レース圏外の競技者のレースを中止させることがある。
- ② トラック競技の、競技会開催要項14備考②A、競技継続の打ち切り時間です。
周回制限時間超過として、競技継続の中止を審判長が宣言し、DNF扱いとします。

☆一般男子5000m【16分00秒】、☆一般女子3000m【11分45秒】

☆中学男子3000m【10分45秒】、☆中学女子1500m【4分45秒】

11、抗 議

2021年(公財)日本陸上競技連盟競技規則TR8によるものとする。

12、その他

- ① プログラム記載内容の訂正は、当日9時までに申込責任者の方が総務へ申し出ること。
- ② 控所、トイレ等の競技場内外及び付帯設備の整理・整頓に努める。
(各団体・学校の責任者及び顧問の先生方へ。ゴミ・空缶等の持ち帰りの指導をよろしくお願いいたします。)
- ③ 各自の持ち物については自分自身で管理し、盗難には十分注意すること。主催者で責任は負わない。
- ④ 競技場(スタンド含む)には、競技者・競技役員以外に入ってはいけない(リストバンド着用者以外の入場は認めない)。
競技者は、フィールドを横断して試技場所への往復、本部前通行は禁止とする。
(スタンド及び陸上競技場外周路を通して、スタート地点・競技場所に移動する)
チームメイトのウェアなどを受け取りに、競技者以外がグラウンドに入ることを認めない。
- ⑤ 競技中に発生した事故などについては、応急処置を主催者で行うが、以後の責任は負わない。
競技参加者は、スポーツ傷害保険等に加入していることが望ましい。
- ⑥ 陸上競技場以外の公園内施設は、借用していないので使用・立ち入らないこと。

競技注意事項

13、感染症対策事項について

競技会に関する方全ては毎日の検温(0.1℃単位)を実施し、体調がよくない場合(当日朝で37.5℃以上の発熱・咳・咽頭痛等の症状がある)、同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合、過去14日以内に入国制限及び入国後の観察期間を必要とされている国や地域への渡航または当該在住者との濃厚接触があった場合等は、感染防止のために自発的に競技会へのご参加をお控え下さい。

- ① 当日の競技場入場者(競技者・監督・コーチ等、競技会審判役員及び競技会役員補助員、競技会主催者団体関係者)は、全ての方が「JAAF体調管理チェックシート」に記入し、御提出ください。このチェックシートを提出されない場合は、競技場入場を許可できないことがあることをご了承ください。及び、終了後2週間「JAAF体調管理チェックシート」にご記入ください。
- ② 不確かな競技者(一見して体調が悪そうに見える、顔がほてっている、咳、鼻水の症状(風邪の症状)が見られる等)の場合は、その場で検温を実施し、状況により参加を許可しない。
- ③ 競技場入場者は全て、三密を回避し、マスク(パフ等も可)を着用。競技者は競技中以外常にマスクを着用し、咳をする際には、咳エチケットにより飛沫を飛ばさないよう感染症防止に努める。
- ④ 適宜、競技活動・競技役員活動の区切りには競技場内での「手洗い・手指の消毒・洗顔」を実施し、感染症防止に努める。
- ⑤ 滑り止め(炭酸マグネシウム)の利用については、共有しない方法で実施するので主催者準備・配布はありません。
競技者は自分専用のもを準備してください。
- ⑥ 競技会開始一週間前・競技会当日・競技会終了後二週間、体調管理を徹底し、競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合は最寄り医師等報告・相談後必ず競技会主催者に連絡すること。
- ⑦ 大会主催者の免責事項:
新型コロナウイルスの感染防止には万全の対策を期すが、万が一感染してしまったとしても、大会主催者は競技会に関わる全ての人の感染に対するいかなる責任を負うことはできない。